

【強靱化、ポストコロナなど貢献 野崎建コン協新会長（オリエンタルコンサルタンツ社長）】

強靱化、ポストコロナなど貢献

野崎建コン協新会長



建設コンサルタンツ協会は27日、定時総会後の臨時理事会で新会長に野崎秀則副会長（オリエンタルコンサルタンツ社長）を選出した。

＝関連2面

新執行体制スタートに当たり、野崎会長は直面する諸課題の解決に向け、引き続き発注機関との意見交換会に注力するほか、国土強靱化5か年加速化対策やポストコロナに求められる新たな社会価値の創出、DX（デジタルトランスフォーメーション）推進による国づくりの建設コンサルタンの立場から貢献し、その取り組みを積極的に発信していく姿勢を示した。

野崎 秀則氏（のさき・ひでのり）1982年3月立命館大理工学部土木工学科卒業、同年4月オリエンタルコンサルタンツ入社。2000年中央設計技術研究所社長、05年オリエンタルコンサルタンツ取締役執行役員関西支社長、07年常務役員事業本部長、08年SC事業本部長を経て09年12月社長。13年12月からACKグループ（現オリエンタルコンサルタンツホールディングス）社長。京都府出身。58年9月23日生まれ、62歳。

【技術力重視の選定普及へ活動展開 建コン協 野崎新会長（オリエンタルコンサルタンツ社長）】

技術力重視の選定 普及へ活動展開

協 長
野 崎 新 会 長
建 康 協 会

建設コンサルタンツ協会（高野登会長）は27日、東京都千代田区の本協会本部で第59回定時総会を開き、2020年度の事業報告と決算を承認するとともに、21年度の事業計画と予算を確認した。任期満了に伴う役員改選では新

会長に野崎秀則副会長（オリエンタルコンサルタンツ社長）、後任の副会長に重永智之常任理事（パシフィックコンサルタンツ社長）を選任した。

議事に先立ちあいさつした高野会長は、コロナ禍にあって働き方改革の成果が問われた1年を振り返りながら、

「アフターコロナの新しい社会像を見据えて、安全・安心、活力ある社会の構築と持続可能な夢のある未来の創造に貢献し、魅力と働きがいのある業界として発展を目指していく」と語った。

21年度の事業計画では、協会会員を対象とした実態調査に基づき諸課題の改善策を提示する「提案と要望」をもとに発注機関などとの意見交換会を継続開催するほか、技術力に基づく選定の一層の促進に向けて、地方公共団体へのプロポーザル方式や総合評価落札方式の普及活動にも引き続き力を入れる。

PPP／PFIやPM／CMなど建設生産・管理システムの新たな業務領域拡大に向け、建設コンサルタントが果たすべき役割や必要な取り組みに対する調査・研究を行うとともに、i-Construction、DX（デジタルトランスフォーメーション）も積極推進する。

迅速で適切な災害対応と改正労働基準法順守の両立や災害申請作業の合理化・適切化など、受発注者協働による災害対応のための環境整備、SDGs（持続可能な開発目標）を切り口とした今後の社会資本整備・管理や地域マネジメントのあり方、建設コンサルタントの役割なども積極的に提言していく。

RCCM資格制度では、コロナ禍でも試験が実施できるよう、コンピューターを使ったCBT試験を導入するとともに、登録更新のウェブ化とウェブを活用した自主学習環境の改善など制度全般の改善も進めていく。